

海洋文化・学習施設の展示概要

(観覧順)

海洋文化・学習施設(仮称) の概要

いわき市の小名浜港二号ふ頭に建設を予定している海洋文化・学習施設(仮称)の展示内容などの詳細設計がこの程まとまりました。

本施設は、水族館機能を中心に海洋博物館、海洋科学館の機能を併せ持つ、新しいタイプの海洋ミュージアムとして、平成十二年夏の開館を目標に今秋に建設工事に着手することとなります。

展示は十七のゾーンに分類され、福島の特徴でもある「潮目」をク

エントランスホール	利用者が最初に入るホール。透明な光に満たされ、海辺の開放感を味わえる。施設のシンボル空間と位置づけている。
プロローグ	生命誕生から脊椎動物まで海の中で生息している生物の進化をテーマに、化石と「生きた化石」を中心に展示する。 【展示例】ミズクラゲ、オウムガイ、カブトガニ、ハイギョ
福島の川	自然豊かな県内の河川、池、沼を再現して、魚や水生昆虫、両生類、は虫類を展示、水辺の生き物の生活を紹介します。 【展示例】イワナ、ヤマメ、アユ、イトヨ
福島の沿岸	陸地と海の接点である沿岸部に生息する生物を紹介する。沿岸部の複雑な地形と自然環境を再現、波の動きなどもつくり出す。 【展示例】ウミタナゴ、イシダイ、マダイ、メジナ、アマモ
北の海獣たち	北太平洋に生息するトド、アザラシ、セイウチ、ラッコなどを開放的な空間で紹介する。
オセアニックギャラリー	「海の文化」「海の科学」「環境情報センター」の3つのエリアで構成し、海に関する、さまざまな学習機会を提供する。 【展示例】カタクチイワシ、ヒラメ、メダカ
南の海	黒潮のふるさと東南アジアの熱帯性淡水魚や汽水生物を展示する。干潟部は干満装置を使って再現する。 【展示例】サンゴ類、マングローブ植物、オオシヤコガイ、トビハゼ、アジアアロワナ
サンゴ礁の海	東南アジアの熱帯性海水魚を模擬サンゴを配した水槽で紹介する。 【展示例】チョウチョウウオ、アカシユモクザメ
オホーツクの海	親潮の源の一つであるオホーツク海のコーナー。極寒の海に生息する特徴的な生物を取り上げる。 【展示例】ハダカカメガイ、オオカミウオ、トラバガニ
潮目の大水槽(親潮の海)	親潮流域を代表する魚や無脊椎動物、海藻類を展示、波動装置で海藻の揺らぐ様子を演出する。 【展示例】ニシン、マダラ、ニチリン、ヒトデ、マコンプ
潮目の大水槽(黒潮の海)	水温が高く、透明度が高い海流の特徴を再現し、本県の重要な水産物である魚類の群れの拡散や収縮などの様子を見せる。 【展示例】カツオ、マサバ、マイワシ
潮目のトンネル	親潮と黒潮の2つの大水槽の間に位置し、それぞれの海域の様子が比較できるようにする。
福島の海	潮目に位置する本県の海に生息する生物や飼育が難しい深海性生物の飼育研究成果を披露する。 【展示例】マンボウ、サンマ、アオメエソ(メヒカリ)、タツノオトシゴ
企画研習室	2、3カ月程度の長期企画展を行う。生物、科学、文化の展示のほか、絵画コンクールなどの特別催事にも利用する。
タッチングプール	解説員の指導を受けながら磯の生物を手にとって観察できる体験学習の場。実験展示のスペースも設けて実演・解説をする。 【展示例】ウニ、ヒトデ、ナマコ、イソギンチャク、カニ類
展望室	小名浜港の様子が観察できる。海や港のデータを提供する。
マリンシアター	300インチの大型ハイビジョンを備え、施設で展示していない生物を独自のビデオソフトなどで紹介する。座席数は204席。

ローズアップし、「潮目の海」黒潮と親潮のであい」のテーマのもとに、福島の川から福島海へ、そして「親潮」、「黒潮」の海流をたどって、それぞれのふるさとへと展開します。

特に、国内でも有数の規模になる総水量二千五十トンの「潮目の大水槽」では、群れの拡散や収縮などの外洋の魚類の動きを再現するとともに、植物や陸上小動物及び鳥類などの展示も同時に行う自然環境再現型の展示を行うことが特徴となっています。

親潮と黒潮の大水槽の境目には、トンネルを設け各々の海域の様子を

一目で比較、理解できる構造にもなっています。

また福島の磯を再現したタッチングプールでは、潮の干満や波を演出し、解説員の説明を受けながら、ウニやヒトデなどを実際に手にとつて観察することができます。

博物館・科学館の機能を参加体験型のアイテム中心に構成するオセアニックギャラリーでは、人と海との関わりの中から培われた「海の文化」、潮目のメカニズムや生物資源を紹介する「海の科学」の展示を展開するとともに、共に「人と地球の未来」を考えるきっかけとしての「環境情報セ

ンター」を設置し、さまざまな情報の検索が可能となるようなシステム構築を目指すこととしています。

建物は、鉄筋コンクリートなどの四階建てとなり、延べ床面積を約一万二千平方メートル、展示水槽総容量三千九百九十トンを予定しています。

今後は、生涯学習推進の一翼を担う施設として、施設における学習支援事業の創設及びその実現を図るための教材等各種システムの開発、並びにボランティアの導入などのソフト面の整備に本格的に着手し、地域に根ざした開かれた施設づくりを目指すこととしています。